

“4th Core-to-Core International Symposium” 出張報告

早稲田大学理工学術院 先進理工学研究科 電気・情報生命専攻

修士2年 更谷有哉

【滞在期間】

2018/3/5 - 2018/3/10

【滞在機関】

University of Bonn、ボン、ドイツ

【スケジュール】

3/5 羽田空港発、フランクフルト国際空港着、ボンに移動

3/6 “4th Core-to-Core International Symposium” に参加

3/7 “4th Core-to-Core International Symposium” に参加、口頭・ポスター発表

3/8 “4th Core-to-Core International Symposium” に参加

3/9 ボンからフランクフルト国際空港に移動、フランクフルト国際空港発、機内泊

3/10 成田空港着

【概要】

3/5

早朝のフライトだったので前日の夜から羽田空港に宿泊。6:10 羽田空港発、8:50 仁川国際空港着。11:00 仁川国際空港発、現地時間 14:50 フランクフルト国際空港着。フランクフルトで列車に乗り換えて 19:44 ボン着。翌日に備えてボン大学の下見をした。Best Western Hotel Domicil に宿泊。



羽田空港国際線ターミナル

深夜の羽田空港には早朝便を待つ人がたくさんいた



フランクフルト国際空港駅

ドーム屋根の現代的な駅舎

3/6

8:50 から “4th Core-to-Core International Symposium” に参加。本プログラムには初めての参加だったが、最初の武岡教授の講演で、プログラムの概要をつかむことが出来た。自分と同世代の方々が多数海外に留学されていることを知り、とても刺激になった。午前中のセッションは議論が白熱して1時間ほど遅れてランチタイムになった。日本の学会だとこのような時は休憩時間や昼食の時間を削って遅れを取り戻すことが多いように思うが、今回のシンポジウムでは Coffee Break や Lunch が削られることはなく、ドイツと日本の文化の違いを感じた。最後のセッションはポスター紹介で、日本からの学生も流暢な英語で発表していた。自分の発表は翌日だったが、同じように発表できるよう精一杯頑張ろうと思った。その後、立食パーティーをしてホテルに戻った。ホテルでは翌日の口頭・ポスター発表の準備をした。



ボン大学

今年 200 周年を迎える歴史ある大学



ミュンスター教会

ホテルから大学へはこの教会の前を通過して移動した。

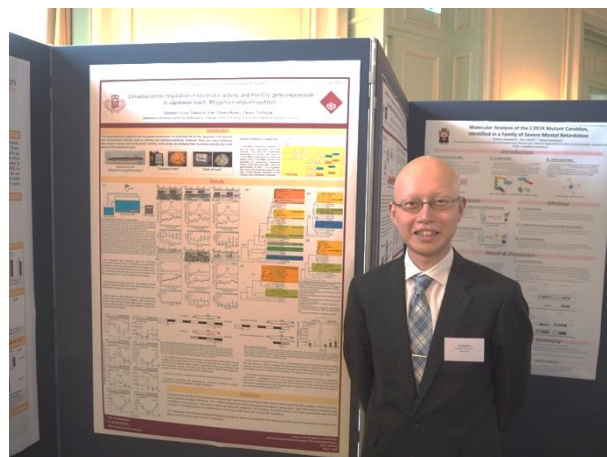
3/7

8:30 から “4th Core-to-Core International Symposium” に参加。Maren Bennewitz 教授の講演はロボットについてのもので、実験生物学系の話を聞くことが多い自分にとってはとても新鮮だった。ロボットが階段を登るデモンストレーションでは会場が盛り上がった。この日のポスターセッションでは私も発表した。海外の方に研究を紹介する貴重な機会であり、事前の準備も行なったつもりだったが、相手の質問が聞き取れず言い直してもらったり、ぎこちない英語になってしまったところもあったので、英語力を向上させなければ

と思った。



口頭発表の様子



発表者とポスター

3/8

9:00 から “4th Core-to-Core International Symposium” に参加。シンポジウムは午前中まで、午後はボンの歴史博物館を見学。第二次世界大戦以降のドイツの歴史についてガイドさんに解説してもらいながら館内を回った。

3/9

現地時間 17:45 フランクフルト国際空港発。機内泊。

3/10

現地時間 12:05 仁川国際空港着。15:10 仁川国際空港発、17:25 成田空港着。

【総括】

今回のシンポジウムでは生命科学をはじめ化学やロボット工学など様々な分野の講演を聴くことができ、大変勉強になった。また、海外で5日間生活する事は私にとって初めての経験であり、現地の方とコミュニケーションが取れるか不安だったが、なんとか乗り切ることができ、これは今後の自信になると思う。同時に、今回自分の英語力の拙さを実感し、今後に向けて英語力を鍛えていかねければならないと思った。

このような貴重な機会を与えてくださり、運営に携わっている皆様にはとても感謝しています。